



倒木の上に芽生えた稚樹 倒木を苗床にしてゆっくりゆっくり育ちます

2023. 11 No. 92

- ・ 豪雨災害からの奥尻島復旧に向けて（治山課）
- ・ 赤井川村との連携による地域振興（石狩森林管理署）
- ・ 美しい森 お薦め国有林 ポロト自然休養林（胆振東部森林管理署）
- ・ こんにちは森林官です！ 標茶森林事務所（根釧西部森林管理署）
- ・ 国民一人一人が、森を支える。森林環境税



林野庁



北海道森林管理局

豪雨災害からの奥尻島復旧に向けて

令和4年8月の大雨により奥尻島では多数の山地災害が発生したことから、北海道森林管理局では、その復旧に向けた治山事業の実施に取り組んでいます。

計画保全部治山課

【治山事業について】

治山事業は、森林の維持造成を通じて、水源のかん養や土砂の流出防止などの森林が持つ公益的機能を高め、山地災害からわたしたち国民の生命・財産を守ることや、生活環境を保全するための事業です。治山事業では、事前の防災・減災対策や荒廃した山地の復旧のため、治山施設の整備や森林の造成を行っています。近年は、大雨や短時間強雨の発生頻度が増加傾向にあり、山地災害も激化する傾向にあるため、緊急かつ集中的な復旧が求められています。

【奥尻島の被害の状況】

令和4年8月15日から16日にかけて、前線を伴った低気圧が奥尻町を通過し、奥尻町では24時間降水量が観測史上1位を更新する記録的な大雨が観測されました。これにより、山腹崩壊が複数発生し、流出した土砂が道道を塞ぎ、通行止めにより一部地区が一時孤立する事態が発生しました。

道道に流出した土砂を取り除いても、流出した転石等が既設の治山ダム周辺に堆積し、2次被害も危惧されました。



流出した土砂で覆われた道道。この災害により稲穂地区・湯浜地区・奥尻地区で合計16箇所の被害が確認されました。

【復旧に向けて】

現地調査の結果から、崩壊した山腹を安定させ、渓床内に堆積した土砂や転石等を除去する等の対策を早急に講じることとしました。

令和5年度は被害を受けた16箇所のうち12箇所（渓間工11箇所、山腹工1箇所（0.09ha））で総工費4億4千万円の災害復旧工事と、残り4箇所の流域別調査等を実施し、順次復旧を行うこととしています。

？ キーワード解説

- ★「**治山施設**」は、溪流の安定を図る治山ダムや山腹の安定を図る土留工などの治山事業で設置される構造物のことです。
- ★「**渓間工**」は、土石流等による渓床の荒廃を防止する工法です。治山ダムに土砂をためて川の流れを緩やかにしたり、流路工により川の流れて谷が浸食されないよう流路を整えたりします。
- ★「**治山ダム**」は、渓間工の一つで、谷間に土砂をせき止めるダムを設置して、川が流れる勾配を緩やかにすることで、土石流の発生や溪岸浸食の抑制を図ります。
- ★「**山腹工**」は、土留工により山腹斜面の土砂の移動を防いだり、植栽工により植生の回復を促進したりします。

【事業実施における課題と対策】

一般的な工事では、施工管理のため監督職員が頻繁に現地へ赴き、状況を見ながら打ち合わせを行っています。しかし、今回の復旧工事は現地が離島であるため、監督職員の現地への移動にフェリー船と車で約2時間30分を要し、適時の施工管理の実施が施工当初からの大きな課題でした。

そこで、この課題へ対策として、円滑に施工管理を行うため、遠隔臨場システムと呼ばれるICT（情報通信技術）を活用することとしました。これは、インターネットを通じた映像と音声の双方向通信により、監督職員は、受注者が撮影した映像を、受注者と会話をしながら、モニターで見ることが出来るものです。これにより、監督職員等は現地に行かずとも工事現場等の確認を行うことができるようになりました。

なお、工事の実施に当たっては、様々な書類等について受発注者間でやり取りをする必要がありますが、書類等を電子化し、情報共有システムを通じたやり取りを可能にすることで、受注者にもメリットのある業務の効率化も進めています。

【迅速な災害対応に向けて】

災害発生時は、迅速に地元へ寄り添った対策を講じることが重要であり、このためには、被害状況をできる限り早く把握し、関係者間で共有することが必要です。現在、林野庁では、迅速な情報収集に向け、スマートフォン等のモバイル機器を用いることで被災箇所と複数の事務所の間をリアルタイムで結ぶ「山地災害調査アプリ」を導入しています。

「山地災害調査アプリ」は、被災地でアプリをインストールしたスマートフォンなどで撮影した写真に、スマートフォンのGPS機能などから位置、撮影方向などの情報を付加することで、事務所では、パソコンを用いて地図上に画像データや情報を表示できるものです。

これにより、被災箇所の正確な位置や被害状況を迅速に把握でき、現地での調査を実施しながらそれとほぼ同時並行で事務所において応急復旧対策の検討を行うことが可能になります。

【おわりに】

気候変動の影響から、北海道においても雨の降り方が変わりつつあり、山地災害への備えを進める必要があると考えています。北海道森林管理局では、ICTの活用をはじめとして、より迅速で効果的な対応を取れるよう努め、引き続き、安全・安心なくらしの確保に向けた治山事業の実施に尽力したいと考えています。

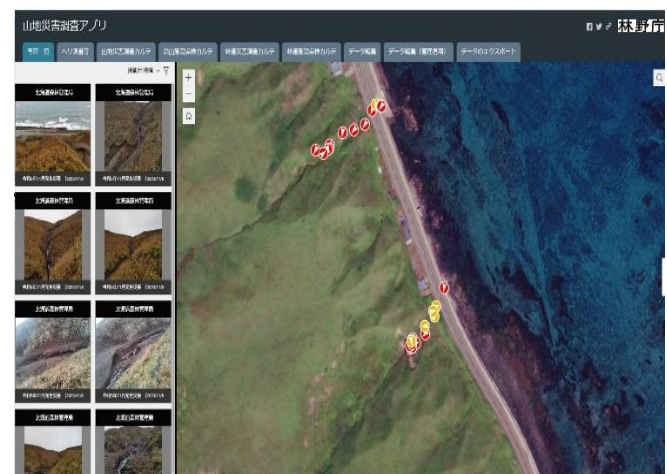


遠隔臨場による現地確認の様子。

写真上：受注者がカメラで現場の状況を撮影。

写真下：監督職員は撮影された映像をモニター上で確認。

双方向通信により、監督職員はモニターを見ながら受注者に対して指示をしたり、受注者から説明を受けたりすることができます。簡単な確認は、監督職員が出張せずに行えるため、現場確認の機会を容易に設けることができるようになり、受注者にとっても監督職員の指示を待つ期間を短縮することができます。工事をより円滑に進められるようになるメリットがあります。



「山地災害調査アプリ」のパソコン上の画面（礼文島）

地図（航空画像）の上に、現地調査で撮影され保存された写真の位置と撮影方向を示すマーク「A」が表示され、マークをクリックすることでその写真の詳細とその写真に関する情報が表示されます。

地域課題の解決に向けた取組

赤井川村との連携による地域振興

石狩森林管理署

【はじめに】

赤井川村は札幌市や小樽市の西方に位置し、同村の中心部は四方を山で囲まれた「カルデラ」状の地形をなしており、この外輪山の上部が国有林、山麓部が民有林となっています。

石狩森林管理署では、こうした立地状況を踏まえ、赤井川村においては特に民有林と国有林の連携を重視しています。

【赤井川村の林業の課題】

赤井川村では、人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって魅力と活力を維持していくため、農林業、観光、リゾートの振興を3本の柱として取り組んでいます。このうち林業については、近年は村の事業としては、間伐材を搬出・利用する搬出間伐の実績に乏しい状況となっています。

このため、石狩森林管理署では、民有林と国有林が隣接する地域で森林共同施業団地の設定を目指し、共同で使用する中間土場（木材輸送のための集積場所）を設置し、間伐材を共同で販売する計画を赤井川村に提案しました。現在、その実現に向け、民有林の上空から撮影したドローン画像の提供や間伐の材積を把握するための森林調査の勉強会の実施など技術的な支援を行っています。

今後は、森林共同施業団地の具体的な計画を当署と同村で持ち寄って、令和5年度内に当該団地の実施計画となる森林整備推進協定を結ぶこととしています。

【赤井川村の観光資源の魅力向上】

赤井川村と余市町境の冷水峠には、平成19年に同村が設置した「カルデラ展望所」がありますが、国有林に植栽したカラマツの成長に伴い、それまで一望できていたカルデラの田園風景や外輪山、さらには羊蹄山やニセコ連峰の眺望が妨げられるようになってしまいました。

カルデラ展望所は同村の貴重な観光資源であることから、同村と当署で平成30年に「ふれあいの森」の協定を結び、毎年合同で森林整備を行っています。本年は赤井川村のキロロリゾートの関係者も参加して盛大に行われ、カルデラの眺望を見事に回復させることができ、今後の利用者の増加が期待されます。

【今後に向けて】

赤井川カルデラの一部を構成する赤井川村の国有林での活動を通じて、今後とも同村との連携を深め、地域における林業や観光業の発展に寄与できればと考えています。



森林調査勉強会の様子



森林整備により眺望が回復したカルデラ展望所

ポロト自然休養林

胆振東部森林管理署

【ポロト自然休養林の特徴】

白老町にあるポロト自然休養林はアイヌ語で「大きな沼」を意味する名を持つポロト湖を取り囲む、面積約396haの森林です。市街地に隣接しながら原生的部分を持つ丘陵性の森林は、昭和51年に自然休養林となり、地域の方からポロトの森と呼ばれ親しまれています。

また、ポロト湖の南湖岸に、昭和59年にアイヌ民族の歴史、文化の伝承を目的としてアイヌ民族博物館が開館し、さらに、令和2年7月に民族共生象徴空間（ウポポイ：国立アイヌ民族博物館、国立民族共生公園、慰霊施設）がその役割を受け継ぐと、ポロト湖周辺は、アイヌ民族の歴史、文化等の創造・発信の拠点として、さらに民族共生の象徴として重要な役割を担うことになりました。

【植生と野生動物】

自然休養林内には、植林されたトドマツ、カラマツ、エゾマツなどのほか、天然のミズナラ、ハルニレ、ヤチダモ、ハリギリ（セン）、クリなどが生育しており、直径1mを超える巨木も点在します。また、ポロト湖の近くには、ミズバショウ群落等、湿原の草本植物も見られます。



ハリギリ（セン）の巨木

野生動物は、エゾシカ、キタキツネ、エゾモモンガ、エゾリスなどの哺乳類や、カッコウ、アカゲラ等の森の鳥、カワセミ等の水鳥約80種の野鳥が生息し、ハクチョウ等の渡り鳥のほか、オジロワシも飛来します。

【楽しみ方】

自然休養林内には、ポロト湖の外周に沿った散策路（サイクリングロード）とポロト湖の北側に起伏に富んだ遊歩道があり、お花見、紅葉狩り等四季折々の自然の彩りを楽しむことができます。また、中央部にはキャンプ場・ビジターセンターがあり、バードウォッチング、ピクニック、水遊び、サイクリングの拠点にできます。

春：遊歩道沿いではシラオイエンレイソウ等の春の山野草が一斉に開花し、ポロト湖北側の湿原では植物観察用の浮橋からミズバショウの群落を観察できます。



夏：バンガロー、炊事場、トイレが完備されているキャンプ場でのもみじとアウトドアを満喫し、波もなく穏やかなポロト湖では、初心者の方も安全にカヌーを楽しむことができます。



写真：白老観光協会提供

秋：もみじ平は一面の紅葉となります。また、望岳台からは紅葉と冠雪の樽前山を望むことができます。



冬：1月末にはポロト湖が結氷しワカサギ釣りで賑わいます。インフォメーションセンターでは、釣竿セット、テント等1式を有料でレンタルでき（日曜日のみ）、気軽にワカサギ釣りを楽しむことができます。



写真：白老観光協会提供

《ポロトの森キャンプ場》

○営業期間：4月1日～11月30日（冬季休園）

○利用料金：

フリーサイト：大人400円、小人300円

バンガロー：5,000円

※キャンプサイト、バンガローの利用は完全予約制です。

○お問い合わせ：

「ポロトビジターセンター」

電話：0144-85-2005



こんにちは 森林官です!

根釧西部森林管理署 標茶森林事務所
首席森林官 高田 敏彦 (写真中央)



【地域のご紹介】

標茶森林事務所は、釧路市中心部から北東に約50kmの標茶町市街地に所在します。標茶町は、町の面積の約66%が森林で、人口は約7,300人、主な産業は酪農であり、乳用牛や肉牛の飼育が盛んな地域です。

また、町の北端には西別岳^{にしべつ}があり、春から秋にかけて多数の登山客が軽登山を楽しむスポットとなっています。一方、町の南部は、釧路湿原や塘路湖^{とうろこ}がありカヌーや釣りが人気であるほか、湿原の大自然を縦断する「くしろ湿原ノロッコ号」も有名です。冬季にはタンチョウが多数飛来し、スポーツや自然を存分に満喫できる地域として、年間を通して観光客が絶えません。

【標茶森林事務所の特色】

標茶森林事務所は、標茶町及び弟子屈町と厚岸町の一部の国有林約1.7万haを管轄しており、山火事で荒廃した原野に森林を造成したパイロットフォレストの一部も含まれています。

標茶町市街地周辺の国有林は山岳地形、南側の厚岸側は湿地、北側の虹別地区はほぼ平坦な地形が多いなど変化に富む現場となっているのが特徴で、パイロットフォレストの象徴である昭和30年代に植栽されたカラマツ人工林が多いのも大きな特色の一つです。

【標茶森林事務所の業務】

標茶森林事務所職員は2名であり、合同森林事務所内の真竜^{しんりゅう}森林事務所職員2名と協力し、毎日の業務を行っています。

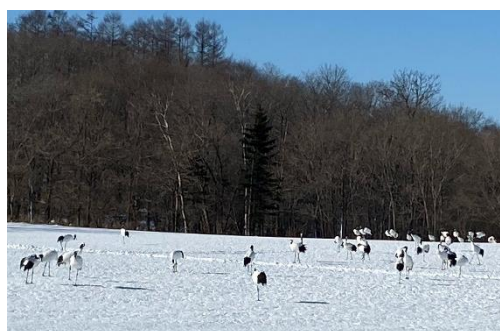
この時期の当事務所の業務は、地況・林況調査が主体であり、今後の森林整備に向け、森林整備箇所や樹種ごとの蓄積等の状況を把握するため、全天球カメラやドローンで撮影した森林の画像を専用のソフトで解析し、必要なデータを蓄積しています。

森林整備の事業が多い事務所であり、特に丸太を生産して販売する製品生産事業では、根釧西部署の年間生産量約8.5万 m^3 のうち、約3万 m^3 を当事務所部内で生産します。また、苗木の植付が約80ha、植付後に雑草木等から植栽木を守る下草刈は約750haと道内でも有数の事業量で、各事業ごとに現場の確認や請負者との打ち合わせ等に、日々、部内を走り回っている状況です。

【最後に】

当事務所に着任して1年半になりますが、雄大な自然の中で豊かな動植物にも囲まれながら業務を行うことができ、非常に健康的で有意義な時間を過ごしていると感じています。

皆様も、道東にお越しの際は是非、標茶の国有林をお楽しみいただければ幸いです。



写真：(左) 牧草地から望む西別岳 (中) 冬季に飛来するタンチョウの群れ (右) 業務中に現れたエゾシカ



国民一人一人が、森を支える。 森林環境税

【森林環境税・森林環境譲与税について】

日本の森林は、国土の約7割を占め、地球温暖化や災害を防ぎ、豊かな水を育むなど、私たちの命や暮らしを支えています。この大切な森林を持続的に守り育てていくため、「国民一人一人が、森を支える」新たな仕組みとして、「森林環境税・森林環境譲与税」が創設されました。

？ キーワード解説

- ★「森林環境税」は、令和6年度から、個人住民税均等割の枠組みを用いて、市町村が国税として1人年額千円を徴収する新たな税です。
- ★「森林環境譲与税」は、森林環境税による税収を原資として、市町村における森林整備の促進のために、市町村と都道府県に譲与される財源です。

【森林環境譲与税の活用状況】

森林環境譲与税（以下「譲与税」という。）は、森林整備を推進する観点から徴収に先んじて譲与が開始されており、今年度で5年目を迎えました。全国の市町村では、譲与税の活用により、間伐等の森林整備、人材育成・担い手の確保、木材利用・普及啓発などの取組が展開されており、取組市町村数、活用額（令和4年度:399億円(活用率80%)、令和5年度予定:537億円(同107%)）のいずれも着実に増加しています。譲与税の導入を受けて、都市・山村連携の取組も広がりをみせています。譲与税の使途は、自治体ごとにホームページで公表していますので、地域での取組状況もチェックしてみてください。

森林を活かすしくみ 森林環境税・森林環境譲与税



日本の森林は、国土の約7割。環境保全や防災、水の浄化など、森林は様々な場面で私たちの暮らしを支えています。この豊かな森林が持つ多くの機能を活かすには、森林をしっかりと整備していくことが必要です。しかし、林業の採算性の低下や、所有者が不明な森林の所在化、担い手の不足などにより、手入れ不足の森林が増えています。このような中、令和元年度に、市町村（特別区を含む、以下同じ。）による森林整備等の新たな財源として、「森林環境譲与税」の譲与がスタートしました。

2. 森林環境譲与税を活用した取組

全国の市町村で、森林環境譲与税を活用して、森林を持続的に活かしていく取組が広がっています。

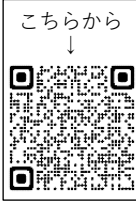
森林の整備

森林整備では、伐採跡地などに樹木を植える「植栽」、植えられた樹木の生育の助けになる草刈りをする「下刈り」、樹木同士の過密さを防いで適切に日光が当たるように一部の樹木を伐採する「間伐」そして、これらの作業に必要となる林道の整備など様々な取組が行われています。また、花粉発生源対策としてのスギの植替え、インフラ施設周辺の森林の整備など、地域の森林の課題に応じた取組が行われています。森林環境譲与税の譲与が開始された令和元年度から令和4年度までの4年間で、約9,8万haの森林整備等が実施されました。



手入れ不足森林の間伐（静岡県小山町） 花粉発生源対策となるコナラへの植替え（鳥取県八雲町） 送電線周辺の森林整備（千葉県君津市）

林野庁では、地域の森林・林業の未来に向けた取組を、より分かりやすく紹介するため、林野庁ウェブサイトに写真を多用した譲与税ページを開設しています。譲与税の仕組みや全国の市町村での取組事例などを紹介していますので、ご覧ください。



【今後に向けて】

各市町村では、森林所有者への意向調査の結果を踏まえた森林整備や、積立基金も活用した木造公共施設の整備などの取組も始まっており、来年度以降も、更なる取組の進展が期待されます。

林野庁では、引き続き、自治体の皆様と協力しながら、各地域での譲与税の効果的な活用に向けた支援に取り組むとともに、取組による成果を積極的に広報していくことにしています。

<お問合せ先>

林野庁森林利用課森林集積推進室
電話：03 - 6744 - 2126

各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

苫前町植樹祭を開催



【留萌南部森林管理署】



10月13日に苫前町植樹祭を町議会議員や認定古丹別こども園の園児たち外43名が参加し、爽やかな秋晴れのもと苫前町字古丹別の緑ヶ丘公園で開催しました。

緑ヶ丘公園は、毎年5月に「さくらまつり」が開催される桜の名所です。

当署の森林官から植樹指導を行い、参加者は1.5メートルほどのエゾヤマザクラの苗木30本を植樹しました。参加された方々は心地良い汗を流しながら、また、園児たちも小さいスコップを使い元気に植樹を楽しんでいました。

「檜山古事の森開設20周年記念行事」



【檜山森林管理署】



10月18日に江差町の椴川国有林において開催された「檜山古事の森開設20周年記念行事」（主催：檜山古事の森育成協議会）に協力しました。

「檜山古事の森」は、檜山地方の歴史的木造建造物の修復に必要とされるヒバ（ヒノキアスナロ）の大径材を供給するため、200～400年という超長期の森づくりのため、国有林をフィールドとして提供しているものです。

当日は、古事の森の開設以来、手入れ等に尽力された方々への特製の感謝状（木製）授与式や、ヒバの稚樹の記念植樹などが行われました。

「お魚殖やす植樹運動」が開催



【宗谷森林管理署】



利尻町仙法志の国有林において10月12日に、また利尻富士町鬼脇の国有林において10月19日に利尻漁業協同組合仙法志支所女性部と利尻漁業協同組合鬼脇支所女性部がそれぞれ主催する「お魚殖やす植樹運動」が開催されました。「お魚殖やす植樹運動」は、昭和63年から行われている植樹運動で、これまでに道内のほとんどの漁協女性部が植樹活動に取り組んでいます。

これからもこのような活動をとおして、利尻漁業協同組合はじめ皆様とともに利尻島の森林を守り続けていきたいと考えています。

Tree Festival in 本別 KIDAKE



【十勝東部森林管理署】



10月14日に「木だけでつくるイベント Tree Festival in 本別 KIDAKE」（実行委員会主催）が開催されました。KIDAKEは道内各地から木工作家の作品、木のワークショップ、美味しい食べ物、木の音楽等が本別町本別公園静山キャンプ村に集まり、アウトドアと買い物合体した会場を皆様に楽しんでいただく木育イベントです。

十勝東部森林管理署は本別町地域おこし協力隊の方とコラボし、「漫画と標本から学ぶ樹木のアレコレ」と題し、「北の森漫画」のパネルや、年輪・樹皮の見える標本などを展示しました。

広報 「北の森林 国有林」11月号

発行 林野庁北海道森林管理局

編集 総務企画部 企画課

〒064-8537

札幌市中央区宮の森3条7丁目70

電話 011-622-5213

HP <https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

【カラマツの黄葉】

カラマツは、国内に自生し、山で見ることができる針葉樹の中で唯一、冬に落葉します。

秋が深まり広葉樹が葉を落とす中、最後まで鮮やかな黄金色の葉を残し、晩秋の山を彩ります。



今月の表紙